
嫌いなわけない

FrangBeat

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嫌いなわけではない

【Nコード】

N0759Z

【作者名】

FrangBeat

【あらすじ】

彼はいつまでもあたしを愛してくれた・・・

あたしもいつまでも愛します。

絶対に。

誓います。

(前書き)

※この作品は小説投稿サイト「魔法のiランド」で僕が最初に書いた作品です^^文章がまだ未熟ですがぜひ読んでください^^

※魔法のiランドでは僕はTSUBASAという名前で作品を投稿しています。

桜井奏。高校2年生。

髪の毛は黒色で瞳の色は黒。
それがあたし。

水樹霧彦。高校2年生。

髪の毛は茶色で瞳の色は黒。
それがあたしの大事な彼氏。

霧彦は学校で一番と言って良いほどかっこいい。

一目惚れしてる女子が大半。

あたしもその一人だった。

だから告白を受けたときびっくりした。

何であたしなんだろうと思った。

「何で？」って聞くと。

「可愛いから。」って一言。

あたしは霧彦と付き合い始めた。

最初は霧彦のテニスのインターハイや練習試合と一緒に帰れなかったから付き合ってることは誰にも知られなかった。

でもインターハイとか終わって一緒に帰りだすと一気に広まった。

「なあ、今日さどっか行かない？」

隣の霧彦があたしに言う。

「今日はちよっと保育園に弟迎えに行かなきゃいけなくて・・・ごめん！」

「その保育園ってどこ？」

なんでそんなこと聞くのかな？って顔してたかな、あたし。

「その保育園までバイクで送るよ。」

霧彦は優しくてカッコイイ。最高の彼氏。

あたしが道を説明したあと、「ok!」と言って黒板に向き直った。授業が終わって「奏。帰ろう。」っていつものように。

「うん。」あたしもいつものように。

霧彦はあたしを保育園まで送ってくれて、家までも送ってくれた。

最近思ったことだけど、霧彦はあたしに一回もキスしてこない。したいはずなのに。

あたしはある日聞いてみた。「キスしたくないの?」って。

「・・・たくない。」

「傷つけたくない。」

そういう答えが帰ってきた。

「キス・・・して・・・?」

あたしがそういうと「いいの?」って聞いてきた。

「いいよ。」あたしが答えると霧彦が壁にあたしを押し付けてキスしてきた。

強引だとは思ったけど、別に良かった。

途中、うちの学校の生徒が歩いてきた。

無論霧彦に恋する女子たち。

ちよっと!! 奏! 霧彦くんとキスするなんて!!

って声と共に、霧彦がはがされた。

霧彦はその女子たちの手を振りほどいて、またあたしにキスしてきた。

女子たちは行き、あたしたちは自分たちの世界に浸った。

ここまでが今までの話。

これからはもうキスもできないし、手もつなげない。無論抱いてももらえない。

あたしたちは去年の夏に別れた。

あたしが幸せそうじゃないと言って。もっと幸せになってと言って。あたしの前から霧彦はいなくなった。

ほかの女の子と付き合いたいからじゃなくて本当にそう思ったみたい。

彼女を作ってない。

付き合って。とか声をかけられるけど、

「ごめん。俺まだ奏のこと好きだから。」

って言うってくれる。

でも付き合ってってあたしが言っても「幸せにできない」って言うて断る。

そのたびにあたしは部屋で泣いて。何度も何度も泣いて。

でもあたしは諦めないよ？本気で幸せな表情で霧彦に「大好きです。付き合ってください。」って言える日まで。

そんなあたしをもう一度霧彦が愛してくれるまで。

片思いならだれも傷つかないよね？

あたしの初恋の相手。

その人は今でもあたしのこと思い続けてくれる。

あたしも彼が好き。

永遠に嫌いな訳、無いのだから。

—END—

(後書き)

この小説を書いた、FrangBeatです。

また小説を書きます。

この作品を呼んでくださった方、感謝申し上げます。

どうでしたか？

この作品は基本涙で終わるような恋が好きな私の妄想です。

実際そんな恋はしたくないですけど・・

ありがとうございました!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0759z/>

嫌いなわけではない

2011年12月2日22時52分発行